

7孔型アルトリコーダー ドイツ式 左手用 (309AF-GL) 取り扱い説明書

このリコーダーは主に自由に動く左手を上にし、不自由な右手を下にして合わせて5つの音孔を操作できれば演奏することができます。(片手の5指のみでは使用できません)

《使い方》

左手で裏側1つ(親指)と表側2~3つ、右手で1~2つ(裏表は問わず)、合計5つ(音孔番号0~4まで)の音孔を操作します。(このタイプでは音孔番号の5, 6は操作しません。また、合計6つ以上操作できる方にはイギリス式が適しています)

《組み立て方》

中部管(図1の管体①~④まで)は手に合わせて音孔を押さえやすい位置に回転させて使用します。適正な音孔の位置を見つけるために、初めの方はビニールテープなどで仮止めをして使うことをお勧めします。

位置が決定したら付属の接着剤で接着します。

《接着時の注意》

突起(図2)を目印にしてクレヨンなどでマーキングして位置を合わせて下さい。接着剤をつけた後(図3)は、まっすぐに差し込んで下さい。瞬時に固定されますので、塗布後は素早く作業して下さい。接着の途中で回転させようとしても動きません。

※ 頭部管と足部管は接着しないで下さい。

《指使い》

裏面の「運指表」をご覧下さい。(出せない音は省かれています)

《アルト改造リコーダー309AFシリーズのご紹介》

◇ 7孔型イギリス式 (309AF-E)

片手で2つ以上、両手合わせて6つ以上の音孔を操作できる人に適しています。左右共用です。

◇ 7孔型ドイツ式 右手用 (309AF-GR)

両手合わせて5つの音孔が操作でき、右手優先の人に適しています。(片手のみでは使用できません)

◇ 7孔型ドイツ式 左手用 (309AF-GL).... このモデル

両手合わせて5つの音孔が使用でき、左手優先の人に適しています。(片手のみでは使用できません)

(親指操作の出来ない方には別途、一般用のアルトリコーダーからの改造が適しています)

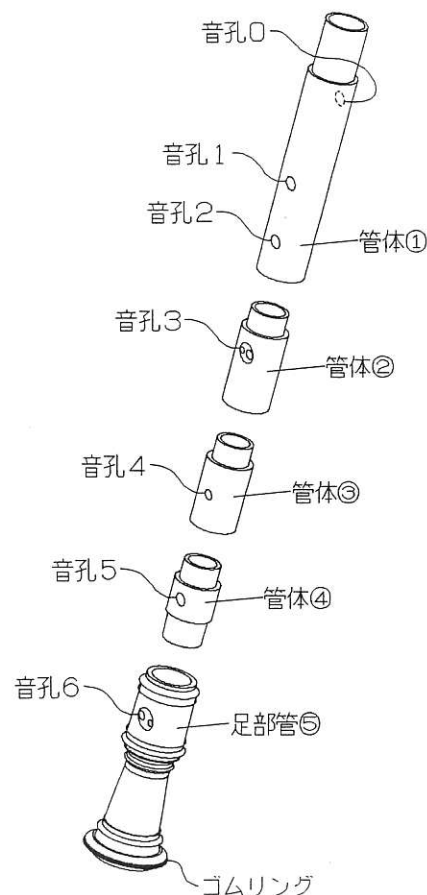


図1



図2



図3 (接着剤の付け方)

